

符号は日本語文法に基づいているか

— 「・・・」の特殊性から考える —

相川弓映（早稲田大学大学院）
yumie999@hotmail.com

【要約】

本稿では、符号はユニバーサルに用いられるものではなく、日本語の符号は日本語の文法に基づいていることを確認する。まず、符号のうち「・・・」を取り上げ、その形態、用いられる位置に特殊性があることを示す。次に、英語、中国語における「・・・」の用例と、日本語における用例を比べ、「・・・」がユニバーサルでないことを示す。そして、二拍フットを手がかりに、日本語における「・・・」は日本語文法に基づいていることを確認する。

1. はじめに

音声言語と文字言語の違いは、以下のような点が指摘されている。一つはメディアの違いである。音声言語は、音声をを用い、即時的なやり取りが行われる。違いのもう一つは、共在しているか否かという点である。通常、文字言語を用いる場合は、相手と同じ場に共在しない。そのため、文字に表せない表情やジェスチャー、韻律をコミュニケーションの解釈手がかりに使うことはできない。なぜなら、これらのパラ言語は共在が前提となっているからである。一方、文字言語では符号や絵文字、顔文字を用いることができる。これらは、共在を前提としない文字言語におけるパラ言語としてコミュニケーションの解釈手がかりになっているのではないだろうか。

これまでの文字言語における研究は、このような音声言語とは異なる文字言語の特徴を捉えた研究はあまり行われてこなかった。文字言語における研究は、ビジネスメールや謝罪メールの研究のように、どのような内容を書くべきかといった伝達内容が重視されてきた。つまり、どのような表現を使うべきかといったことである。しかし、どれだけ適切な伝達内容を用いたとしても、伝達方法によって、読み手が受ける印象は全く異なる。例えば、謝罪メールで「大変申し訳ございません」という内容を伝えようとする。その際、以下の方法で伝えた場合、どのような印象を持つだろうか。

- (1) 大変申し訳ございません。
- (2) 大変申し訳ございません！！
- (3) 大変申し訳ございません…。
- (4) 大変申し訳ございません m(_ _)m

(1)から(4)は同じ内容を伝えているが、読み手が受ける印象は全く異なるだろう。「現実の社会におけるコミュニケーション活動では、伝達内容だけでなく、相手への伝達方法が重要であることが多い」

(野田 2009: 72)ため、符号や顔文字といった文字言語特有の言語現象を捉えた研究を行う必要がある。

顔文字は 1 バイトの言語圏では以下のように、顔を横にして用いるのが一般的である。

(5) :)

(6) :-(

一方、2 バイトを使用する日本語では以下のような顔文字を用いるのが一般的である。

(7) (*^-^*)

(8) (>_<)

このように、1 バイトの言語圏と 2 バイトの日本語の顔文字は形態が異なる。一方、符号では「!」「?」「・・・」という形態は、1 バイトか 2 バイトかの違いはあるが、その形態はユニバーサルに用いられる。そのため、符号が担う役割もユニバーサルであると考えられてきたのではないだろうか。しかし、以下のようなメールには違和感を覚えることがある。以下は日本語学習者が書いたと想定した作例である。

(9) 先生、こんにちは！

今週は仕事が忙しいですから、クラスを休みます。

来週は日本語の勉強をがんばります・・・。

このようなメールには違和感を覚える。このことから、日本語学習者が用いる符号は、日本語母語話者が用いる符号とは異なるのではないだろうかという考えに至った。そこで本稿では、符号はユニバーサルに用いられるものではなく、日本語の符号は日本語の文法に基づいていることを確認する。

2. 「・・・」の特殊性

坂本他編(2002)『記号学大事典』によると、符号には大きく 2 通りの使い方があり、1 つは「しるし、目印」の意味であり、もう 1 つは言語記号、特に文字との関係で用いられるものである。後者の意味での符号は、更に 2 分して考えることもできるとあり、「第 1 は、言語記号 (文字) の補助符号として用いられるものである。文章を読みやすくするための句読点や漢文訓読用の返り点などがそうである。この場合の符号の特徴は、文字と違って音韻を代表しない、つまり、読み方が一定していないということである。(中略) 第 2 は、点字やモールス符号のように音声や文字の代替機能を果たすものである」(p.358)。「!」「?」「・・・」は言語記号 (文字) の補助符号と位置付けられるだろう。なぜなら、音韻を代表しないからである。音韻を代表しないことから考えると、「!」「?」「・・・」はピクトグラムに近いといえるだろう。一方で、森山(2013)は、「!」「?」「・・・」などが何らかの発音上の実体と関連するのか調査を行い、発音上の特性と「!」「?」「・・・」の使用に一定の相関がある可能性を示している。つまり、「!」「?」「・・・」は音韻を代表しないが、発音上の特性と関連がある可能性が高い。このような点から考えると、「!」「?」「・・・」はアラビア数字、「&」などの表意文字に近いといえる。アラビア数字や「&」は、形態はユニバーサルであるが、音韻は個

別言語に従っているからである。例えば「1」の形態はユニバーサルであるが、日本語では「イチ」、英語では「ワン」、中国語では「イー」と発音される。「!」「?」「・・・」は表意文字のように、形態はユニバーサルであるが、形態以外は個別に言語の文法に基づくと考えられる。

日本語には符号に関する正書法はないが、符号の基準を示したものとして、文部省教科書局調査課国語調査室が1946年に作成した『くぎり符号の使ひ方〔句読法〕(案)』が現在も用いられている。これには19の符号の基準が示されている。このうち「,(テン)」「.(マル)」「.(ナカテン)」などは、1バイトの言語圏では用いられない。そのため、「,(コンマ)」「.(ピリオド)」とは形態が異なり、その意味や使用法は個別言語に基づくと考えられやすい。一方で、「!(感嘆符)」「?(疑問符)」「・・・(テンテン)」は、1バイトの言語圏でも用いられる形態のため、その意味や使用法が個別言語に基づくと考えられにくいと考えられる。形態が他言語と同じ符号のうち、「・・・」は以下の点で特殊である。

「!」「?」と「・・・」は用いられる位置に相違点がある。以下は文末に用いた例である。

- (10) 今日も残業!
- (11) 今日も残業?
- (12) 今日も残業・・・

文末では「!」「?」「・・・」を用いることができる。次に、以下は文頭に用いた例である。

- (13) !今日も残業
- (14) ?今日も残業
- (15) ……今日も残業

日本語の場合、文頭では「!」「?」を用いることができない。用いた場合、特別な意図が付与される。一方、「・・・」は文頭で用いることができる。次に、以下は文中に用いた例である。

- (16) 今日も!残業
- (17) 今日も?残業
- (18) 今日も・・・残業

「!」「?」は、文中で用いることができるが、用いた場合、特別な意図が付与される、または一文ではなく二文で用いられているように読める。一方、「・・・」は文中でも用いることができ、一文のまとまりとして読める。以上のように、「・・・」は「!」「?」と異なり、その使用位置は限定されない。

また「・・・」は、以下のような形態が用いられている。

- (19) 今日も残業…
- (20) 今日も残業・・・
- (21) 今日も残業、、、

(22) 今日も残業。。

(23) 今日も残業...

(19)は2バイトに点が3つ並んでいる三点リーダー、(20)は全角の「・(ナカテン)」、(21)は「、(テン)」、(22)は「。(マル)」、(23)は「.(ピリオド)」である。このように「・・・」は形態にバリエーションがある。また、点の数は通常3点であるが、2点以上、何点でも複数連続して打つこともできる。

本章では「・・・」の特殊性を示した。「・・・」は、以下の3点で特殊である。形態が1バイトの言語圏と同じである点、文頭、文中、文末いずれの位置でも用いることができる点、複数の形態が用いられている点、以上3点である。

3. 『Amazon』の商品レビューで見られる「・・・」

商品購入サイト『Amazon』では、商品購入者が星1つから5つで商品进行评估し、商品に対するレビューを書き込むことができる。星5つが最高評価であり、星5つを得た商品に対するレビューは、商品を高く評価する内容であると考えられる。

英語版『Amazon』¹における商品レビューでは、星5つという高評価にも関わらず、以下のような文章が散見される。

(24) Very comfortable, fits perfectly.. True to size

(25) Wore,them fit the first time today.... Love these.... Size fits as expected.

これは女性用ランニングシューズの商品レビューである。星5つという高評価をしており、レビューの文言によると商品を高く評価していることがわかる。しかし、「・・・」があることで何か言い含んでいるような印象を受ける。同様に、中国版『Amazon』²でも、以下のような文章がある。

(26) 很好比期待中的感觉更舒服...

(とても良い、期待していたより気持ちが良い感じ...)

(27) 不错，是春秋夏天穿的哦，发来 38 码，还好穿的正好。。

(良い、春秋夏にはけます、38号を注文しましたが、はいた感じぴったりです。。)

これも女性用ランニングシューズの商品レビューである。(24)(25)と同様に、何か言い含んでいるような印象を受ける。一方、日本語版『Amazon』³では、商品を褒める際、以下のような場合を除き「・・・」が用いられることはない。

(28) 今まで、T☆☆☆ルを、何度も買い替えましたが、
毎日3回は使っているのに、鍋が傷つくことも、
振り返ることもありません。

¹ <<https://www.amazon.com>>(2018年2月1日)

² <<https://www.amazon.cn>>(2018年2月1日)

³ <<https://www.amazon.co.jp>>(2018年2月1日)

洗うのも楽だし、とても気に入ってます。

もっと早く買えば、無駄なお金は使わなくてすんだのに、、、

(29) 優れものです

コスパも良く使い勝手がいいです。他のレビューで匂いが...と書いてありましたが、今の所ありません。

(28)は鍋、(29)は炊飯器の商品レビューである。これらの商品レビューの「・・・」には違和感を覚えない。

上述の『くぎり符号の使ひ方〔句読法〕(案)』では「・・・」の準則として、1. 話頭をかかず時、言いさしてやめる時、2. 引用文の省略、3. 無言を示す、4. つなぎに用いる、以上4項目を挙げている。しかし、この準則からは、英語、中国語における「・・・」の違和感を説明することはできない。これまで言語学において符号は周辺的な現象として見なされてきた。そのため、「・・・」が具体的に何を担っているか明らかになっていない。しかし、英語、中国語における「・・・」には違和感を覚え、日本語における「・・・」には違和感を覚えないことは、日本語における「・・・」は日本語の文法に基づいているはずである。

本章では、英語、中国語における「・・・」の用法への違和感を示し、日本語における「・・・」は日本語の文法に基づいている可能性を示した。

4. 「・・・」と日本語文法

2章では「・・・」が文頭、文中、文末、いずれの位置でも用いることができることを示した。以下も文中に用いた「・・・」の例である。

(30) きょ・・・うも残業

(31) 今日もざ・・・んぎょう

(30)(31)は文中に用いた「・・・」であるが、違和感を覚える。このことから、「・・・」は文中のどこにでも自由に用いて良いものではないと考えられる。

日本語のリズムは二拍フットという2モーラのリズムを好む。二拍フットは、長音、撥音などを優先的に2拍とし、その他の拍を2拍で繋ぎ、残った拍は1拍とする。(30)(31)で用いた「きょうもざんぎょう」を二拍フットでまとめると以下ようになる。

(32) きょう も ざん ぎょう

この二拍フットのまとまりの間に「・・・」を用いた場合、以下ようになる。

(33) きょう・・・も・・・ざん・・・ぎょう

このように、二拍フットのまとまりの間に「・・・」を用いた場合は違和感を覚えない。(30)(31)は二拍フットのまとまりから逸脱した位置に「・・・」が用いられている。そのため、違和感を覚えると

考えられる。

定延(2016)は、「ばかもん！」「田中さん！」「できません！」は自然であるが、「ばかもんー！」「田中さんー！」「できませんー！」は不自然であることを指摘している。そして、「何も考えずに自然に話すということは規則的（文法的）に話すということである」(p.19)と述べている。「・・・」も同様に、何も考えず書くということは文法的であるいえるだろう。

本章では、二拍フットを手がかりに「・・・」が日本語文法に基づいていることを示した。

5. おわりに

本稿では、符号のうち「・・・」を取り上げ、「・・・」が日本語の文法に基づいていることを確認した。しかしながら、「・・・」が何を表し、コミュニケーションでどのような役割を担っているかは明らかになっていない。今後の課題としたい。

参考文献

木村大治(2011)『括弧の意味論』NTT出版

国際交流基金(2009)『国際交流基金 日本語教授法シリーズ第2巻 音声を教える』ひつじ書房

坂本百大、川野洋、磯谷孝、太田幸夫編(2002)“符号”の項『記号学大事典』(p.358)柏書房

定延利之(2016)『コミュニケーションへの言語的接近』ひつじ書房

野田尚史(2009)「言語の教育からコミュニケーションの教育へ—非母語話者に対する日本語教育を例にして—」
『社会言語科学』12(1)、pp.67-79

森山卓郎(2013)「句読点、補助符号とその表現効果」『日本語学』32(5)、pp.132-143

文部省教科書局調査課国語調査室(1946)『くぎり符号の使ひ方〔句読法〕(案)』